

〔課題演習抄録〕

道徳科における統合型道徳授業を援用した授業研究 —道徳的实践に焦点をあてて—

有 迫 和 樹

Kazuki ARISAKO

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース

キーワード：道徳科，道徳的实践，統合型道徳授業

1 研究の目的

学習指導要領解説 特別の教科道徳編総説(文部科学省 2017)において、「道徳教育を通じて、個人が直面する様々な状況の中で、そこにある事象を深く見つめ、自分はどうすべきか、自分に何ができるかを判断し、そのことを実行する手立てを考え、実践できるようにしていくなどの改善が必要である」と示されている。これまでの道徳科の授業で行われてきた道徳的価値を理解に加え、理解した価値を基に道徳的实践についても考えさせていくことが求められている。

また、道徳教育の指導方法の課題として、現代の子どもたちにとって現実味のある授業となっていないことがあげられている(文部科学省 2013)。この一要因として、実際の着地点には、多様な立場があるにもかかわらず、道徳の授業が選択肢として最善と最悪の両端のみを提示したこと(仮屋園ら 2005)が指摘されている。その解決策として、最善と最悪だけではなく、最善と最悪との間にある幅広い中間地帯を考えていくことにより、道徳の授業に現実味をもたせることができる(仮屋園ら 2005)。道徳的实践について焦点化の必要性も示唆される。加えて、従来の道徳の授業では、思考と行動が分離されたりして、なかなか思考と行為を統合して道徳的实践につなげることができていなかった(柳沼ら 2005)ことも指摘されている。

そこで本研究においては、上記課題の解決方法として、統合型道徳授業の考え方に注目した。統合型道徳授業の考え方とは、ねらいとする道徳的価値を教えること(A型)、子どもの個性的・主体的な価値表現や価値判断を行い、道徳的価値について深めさせること(B型)の複数時間授業を通して、価値の伝達と創造の統合をねらう(伊藤 2017)

ものである。前述のB型授業は、道徳的实践について考えさせる上でも重要であると推測した。一般的に統合型道徳授業は、A型・B型を柔軟に組み合わせる複数時間で行うものである。その中でも、同一教材でA型の後にB型を行う、2時間の授業に注目した。A型の後にB型を行うことにより、道徳的価値を捉えさせた上で、それを基に道徳的实践について考えさせることができる。また、2時間の授業にすることで、複数時間授業を行う上での課題としてあげられている、内容項目全体を見渡した計画をどうするのか(伊藤 2016)という課題を解決する一助になるのではないかと考える。本研究の目的は、統合型道徳授業の考え方をういた2時間の授業を同一教材において展開することで、道徳的实践について考えさせることができるのかの検証である。

2 研究の計画

本研究では、授業実践と質問紙調査を行った。授業実践においては、公立X小学校第4学年Y組(23人)を対象に、教材「ほっとけないよ」(教育出版株式会社、小学どくとく4)を用いて、1教材で2時間(2019年5月22日、5月30日)の授業を実施した。1時間目の道徳的实践について記述したものと、2時間目の自らが実際にできることについての記述したもの、他の児童との交流後に再度自らの考えを見直す際に記述したものの3つの記述について比較し、道徳的实践についての記述の変容を検証する。また、質問紙調査は、同学級(29人)を対象として、2019年11月28日に行った。児童が第4学年次に学習した異なる内容項目9教材(教育出版株式会社、小学どくとく4)を提示し、どの教材において、授業中以外にももっと考えてみたい、話し合いをしてみたいと考えてい

るのかについて4件法により調査した。調査結果について、登場人物や登場する場所などを中心に教材についての傾向や特徴を分析し考察する。

3 研究の内容

本授業実践について、1時間目は、道徳的価値の理解を図ることをねらいとする授業である。具体的には、正しいことを堂々と言えることの大切さについて捉えることをねらいとした授業である。2時間目は、児童の主体的な道徳的価値の表現・探求活動をねらいとする授業である。具体的には、1時間目で捉えたことを基に、実際に自らに何ができるのかについて考えさせた。授業の流れとしては、最初に、個人で自らができることについて考えさせ、その内容について他の児童との交流を行う。最後に、再度自らの考えたことについて見直すという3つの活動を行った。

1時間目の授業を通して、20人の児童が「これから直接注意するようにしたい」という趣旨の内容を記述している。これは、1時間目の授業を通して学んだことを基に、自らがなりたいと考える姿についての記述である。2時間目の授業において、「本当に直接言えますか」という発問後の、自らに何ができるのかについての記述では、5人の児童が直接注意とは異なる内容を記述している。理由においても、「勇気がでない」など、直接注意できるようになりたいと思っはいるが、実践することは難しいという自らの実態を基にした記述である。交流後に自らの考えを見直した際の記述では、11人の児童に変容が見られた。交流から、他の児童の考えの中に自らが実践できそうなことを見つけたことが大きな要因であると考えられる。また、1時間目の道徳的実践についての記述と交流後に自らの考えを見直した際の記述では、18人の児童に変容が見られた。自らの実態や他の児童との交流をふまえた上で、何ができるのかについて記述している児童が増加した。

また、質問紙調査について分析を行ったところ、とても思う・少し思うと回答した児童が多い教材の特徴として、学校内での出来事を扱っている傾向にあった。具体的な教材として表1の教材名③、④、⑤、⑧、⑨があげられる。身近である学校での出来事を対象にしていることにより、実際に登場人物のような経験や場面を見聞きしたという児童も多いと推測できる。これにより、教材の登場人物と、自らや他の児童の姿を具体的に繋げながら考えることができたのではないかと考える。

また、児童にとって身近な内容であることが、学習することの必要性をより感じさせることに繋がったのではないかと考える。

表1 質問紙調査に用いた教材とその結果

授業日	教材名	とても思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
4/17	① つながるやさしさ	9人	13人	5人	2人
4/24	② ゆめは世界一のプロ野球マスコット	12人	9人	5人	3人
5/15	③ かつこいいせなか	9人	13人	6人	1人
6/27	④ 学校の自まを大切に	15人	12人	0人	2人
7/24	⑤ プロレスごっこ	15人	12人	2人	0人
8/30	⑥ あいさつでつながる	9人	13人	6人	1人
9/14	⑦ 雨のバスの降りゆう所で	14人	5人	9人	1人
11/19	⑧ 学校の歴史	15人	9人	2人	3人
11/26	⑨ 仲間だから	17人	12人	0人	0人

4 成果と課題

成果として、1時間目で道徳的価値について理解させたことを基に、2時間目で児童の道徳的実践について考えさせることができたことから、道徳的実践について考えさせる一授業として、統合型道徳授業の考え方をういた授業が有効であると検証できたことである。加えて、道徳的実践について考える時間を十分に確保でき、自分の実態を基に何ができるのかについて考えさせることができたことがあげられる。また、2時間の授業を組むにあたり、学校での出来事を扱った教材については、児童の更に学習したいという意欲が高いということを明らかにできた。

今後は、統合型道徳授業の考え方をういることにより、道徳的実践への考えの深まりや変容がどの程度みられたのかについて明らかにすると共に、更なる有効性について模索していきたい。

引用・参考文献

- 文部科学省 2017 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説特別の教科 道徳編。
 文部科学省 2013 今後の道徳教育の改善・方策についての報告～新しい時代を、人としてより良く生きる力を育てるために～『平成25年12月26日 道徳教育の充実に関する懇談会』。
 仮屋園昭彦・小柳正司 2005 道徳の授業で伝えるべきメッセージとは何か『鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要』第15巻 pp.165-175。
 柳沼良太・竹井秀文 2005 問題解決型の道徳授業の理論と実践『岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究』第7巻 p.245。
 伊藤啓一 2017 考え、議論する道徳科授業の新しいアプローチ 10 明治図書出版株式会社。
 伊藤啓一 2016 道徳教育の授業理論 小寺正一・藤永芳純（編）四訂道徳教育を学ぶ人のために 世界思想社 pp.109-140。
 教育出版株式会社 2019 小学どうとく 4。